

第3回 学校運営協議会

令和7年3月4日 / 11時30分～12時40分 / PC室

参加者

【委員】林田委員長、内藤副委員長、吉田委員、櫻井委員、山内委員、満田校長

【事務局】小倉教頭、伊藤副主査

【傍聴者】なし

議題

1. 校長あいさつ

本日、6年生を送る会を実施した。

子どものエネルギーを感じると同時に、教職員のバイタリティの高さを再認識している。

働き方改革を踏まえ、近隣校との連携強化を図りながら学校運営の効率化を進める。

2. 学校関係者評価委員会

(1) 学校評価結果説明

①保護者アンケート

- ・児童が楽しく学校生活を送れているか → 肯定評価89%
- ・児童同士の協力関係 → 肯定評価81% (13%が「そうでない」と回答)
- ・教職員との関係 → 肯定評価88%
- ・いじめ防止の取り組み → 肯定評価73%
- ・相手を思いやる心の育成 → 肯定評価77%
- ・地域との連携 → 肯定評価74% (「分からない」が15%)
- ・英語学習の意欲 → 肯定評価70%

②教職員自己評価

- ・基礎学力の定着 → 高評価
- ・探究的学習への取り組み → 肯定評価66% (低評価)
- ・いじめ防止の取り組み → 教職員は肯定評価92% (保護者評価とのギャップ)
- ・学校内のチームワーク → 高評価
- ・勤務時間 → 改善傾向にあるが、依然として長時間労働の課題あり
- ・コミュニティ・スクールの認知度 → 10月の中間評価より向上

・不登校支援教室の活用 → 高評価

(2) 学校評価について意見交換

委員：昨年度辺りから学級が落ち着かないと耳にする。現在の状況について伺いたい。

校長：個々の児童の発達に応じて基礎的な力をつけていく必要があると感じている。学年を問わず児童や保護者対応をする中で職員が疲弊している側面もあり、教育委員会も交えて早期に対応している。

委員：PTAが学校と保護者の間に入ることで、クッションの役割を果たせるのではないかと感じる。

行事の縮小について、学校を見る機会が減ることは残念。行事や様々な体験を通して、子どもの成長が見られることで学校に対する評価が上がるのではないか。こうした行事がなければそうした実感を保護者が感じにくくなる。

委員：教職課程を取っていても教員になる学生が60%という話もある。学校運営上の課題に対して地域がフォローアップしなければならないという意識をもっている。教職員の負担はカリキュラムの肥大化によるものなのか。

校長：カリキュラム以外の仕事が存在する。

委員：先生に様々な役割が求められており、職務が多様化している。その中で担任の先生が追い詰められてしまう気持ちも理解できる。

校長：以前に比べると業務内容が大きく変化している。社会が変容しているため、社会に合わせて変化していくことは許容していく必要がある。

委員：保護者の評価のなかで、何を主張しているのか、学校に何を求めているのか読み取りにくいものがある。

委員：保護者評価についてはSNSの影響も強いのではないか。先生のなり手不足についてもSNSの影響が強いと感じる。ネガティブな投稿が溢れているなかで、教育学部に進んだ学生が教員を目指す気持ちになれないのは理解できる。

委員：家庭により事情はあるが、保護者の周りに頼れる人が少ないと感じる。そうした各家庭の背景を汲み取りながら対応しなければならない先生の負担は大きい

校長：関係機関と連携するなかで、家庭の背景が見えることもある。大変な家庭に育つ子どもの親は似たような境遇で成長しているような連鎖が起きている。

委員：子どもに目をかけて、手をかけて、声をかけて感じる部分について、いつかどこかで思い返してもらえたらと思い、親に気持ちを伝えることもある。

委員：教育とは関係ないが、SNS上で「ありがとう」「いただきます」「ごちそうさま」と言うか、言わないかの論争が度々起きている。昔の「あたり前」が「おかしい」という価値観に変わってきている。

委員：保護者も多忙で、他の保護者と接する機会が減っており、コロナ禍によってそれが加速した。SNSで自分の価値観が承認されることで正論になってしまっている。SNS上の正論と実際の正論にはギャップがあるものの、SNSと現実の差を埋めるものがなく、保護者がそれぞれの価値観でそれぞれの意見を主張するため対応が難しくなる。

委員：時代とともに価値観が変わることは仕方がないと思う。ただ、その自分の価値観から外れたものは学校の責任、という感覚なのか。

委員：そういう感覚の方も一部でいらっしゃる。人とのコミュニケーションが減り、SNSのコミュニケーションが増えることで信頼できるツールになってしまっている。

委員：SNSによって考え方が飛躍している。学校に伝えるべきところ、教育委員会に伝えよう、となってしまう。そういう背景もあり、保護者評価では書けない人もいるのではないか。

委員：PTAの作業等、保護者同士で顔を合わせる機会を増やせないかと考えている。学校に関心がある方は保護者や地域住民の中にもいるので、そうした方々の足を学校に向けるためには保護者や地域の方が集まれる場が必要。

3. 令和7年度学校運営協議会について

- ・第1回会議 令和7年4月末～5月初旬に開催予定
- ・委員の承諾について
- ・次年度の委員について

4. 連絡

次年度、千葉県の通学路安全推進事業の研究指定を受けており、11月に公開研究会を実施する予定。地域の協力をお願いしたい。